

# 看護師6人一斉辞職

取鳥立  
学護立  
校養県

## 一部児童生徒通学できず

鳥取県立鳥取養護学校(鳥取市江津)の看護師6人全員が、5月下旬に一斉に辞職し、医療的ケアを必要とする児童生徒の一部が通学できなくなっていることが8日、県教委や同校への取材で分かった。県教委によると、同校に通う小学部から高等部まで76人のうち、たんの吸引や経管栄養などの医療的ケアが必要な児童生徒は33人。同校は非常勤の看護師6人を配置して対応していたが、5月22日、全員が一斉に辞職を申し出た。



看護師が一斉に辞職し、児童生徒の一部が通学できなくなっている鳥取県立鳥取養護学校＝8日、鳥取市江津

看護師らは、吸引時間が遅れたことなどを理由に一部の保護者から厳しい指摘が繰り返されたことと説明している。入院中などの児童生徒を除き、医療的ケアを必要とする児童生徒のうち21人は保護者が付き添って登校しているが、9人は通えず、自宅や福祉施設のデイサービスで過ごしている。このうち訪問教育を希望する4人には、教員がデイサービス先で授業を行っている。医療的ケアを必要とする子どもは2011年度の18人から大幅に増えており、看護師も同年度の2人から年々増員して対応していた。同校によると、看護

師らは6人体制では引き継ぎなどが十分にできず、責任ある体制がとれないとも話していたという。

県教委は、県立中央病院や県看護協会に協力を要請し、今週中にも看護師3人の体制で医療的ケアを再開する予定。保護者によるケアも引き続き依頼し、2学期から全ての児童生徒に対し看護師で対応できる体制を目指すとしている。

同校の野坂尚史校長は「十分な体制には8人の看護師が欲しいが、できることからスタートする。学校の管理職も対応し、看護師の負担を減らしていく」とし、山本仁志教

「ったのか、原因をしっかりと検討する。子どもたちに対しては申し訳なく再開させたい」と話  
ない気持ち。一日も早く再開したい」と話

# 医療的ケア部分再開

## 3人体制できょうから

取立鳥  
学護立  
校養学

鳥取県立鳥取養護学校（鳥取市江津）で、看護師6人全員が一斉に辞職し、医療的ケアが必要な児童・生徒9人が通学できなくなっている問題で、同校は11日、県立中央病院などから看護師の派遣を受けて1日3人体制でケアを再開する。県教委によると、当面は専用ルームでのケアしかできない、9人全員への対応は難しい状況という。県教委によると、同病院からはローテーションで2人ずつ、県看護協会と県立白兔養護学校（同市伏野）からは1日おきに各1人の看護師が派遣され、専用ルームで医療的ケアを実施する。頻繁なケアが必要な子どもには看護師が教室を回って対応しなければならぬが、3人体制ではできないという。同校に在籍する医療的ケアが必要な児童・生徒は33人。本来は看護師6～8人の勤務が必要のため、県教委は同校に勤務できる看護師を募集するほか、保護者が付き添って通学している子どもについて、引き続き協力を依頼する。看護師の一時派遣は夏休み前の7月22日までを予定。県教委特別支援教育課は「2学期までに（看護師を）学校で雇用する態勢を整えたい」とし、同校は「1日も早く子どもたちが安心して登校できるよう努めていきたい」としている。

2015年6月11日 日本海新聞

# 命の危険を感じた

## 指摘の保護者心境語る

### 保護者一問一答

看護師が辞職理由の一つに挙げた「厳しい指摘」をしたとされる保護者が11日、本紙の取材に答えた。

「5月20日(土)だったと思う。ケアの時間の遅れなど、3〜4時間の間に3回もミスをした。決まった時間から8分遅れた時は、約15分間低血糖の状態になった。子どもの顔は青く、先生の腕の中で気を失ったような状態になってしまった。子どもの命の危険を感じた」

「過去の経験から、少しの遅れでも命に関わると伝えていたにもかかわらず、なかなか対応してもらえなかった。看護師は3人その場にいたのに、子どもが危ない目にあっているのに親がいるだろう」

「中には『看護師に何か言つと、子どもがどんな扱いを受けるかわからない』という保護者もいるが、つねは命に関わる。譲れない」

「学校などの対応は。」「ケアのミスについて(県教委から)『学事故に値する』と伝えられたが、学校側から謝罪はない。保護者たたきに走っている。悪いことをしたという認識はないのでは」

「今後の対応で望むことは。」「学校は看護師をかいて(県教委から)『学事故に値する』と伝えられたが、学校側から謝罪はない。保護者たたきに走っている。悪いことをしたという認識はないのでは」

## 問題防ぐ研修「不十分」

### 校長一問一答

鳥取県立鳥取養護学校(鳥取市江津)は11日、隣接する県立中央病院などからの看護師の派遣を受けてケアを再開した。「学校に通わせられてうれしい。子どもも喜んでいる」と胸をなで下ろす保護者の声も聞かれた一方、県教委と学校は、新たな看護師の確保とともに、教員や保護者、看護師を含めた連携の在り方の見直しに迫られる。

坂尚史校長に聞いた。今回の問題をどう受け止める。

「学校で医療的ケアができず、迷惑を掛けている皆さんにおわびしたい。医療的ケアが必要な子どもたちが登校できなくなりました。野」

「問題はチームワークで防ぐ研修が十分でなかった。学校看護師が安心して働け、意見できる体制をつくりたい。保護者の要望が学校看護師へ直接いかないうち受け付ける窓口を設ける。学校看護師や外部職者の意見を聞く場を持つなど、具体的な体制を整える」

「厳しい指摘をしたとされる保護者と学校は和解できたか。」「そこはまだ不十分だと思つ」

# 8人が登校再開

## 医療的ケア確保 保護者ら喜ぶ

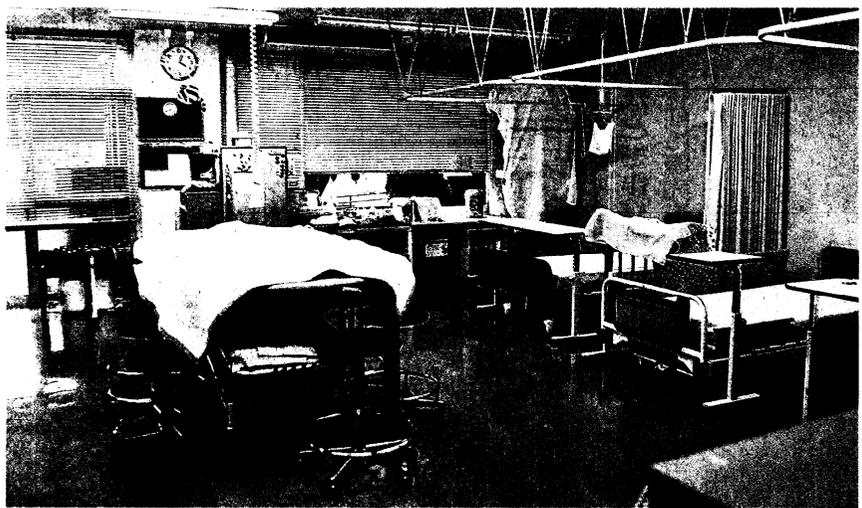
鳥取県立鳥取養護学校(鳥取市江津)は11日、隣接する県立中央病院などからの看護師の派遣を受けてケアを再開した。「学校に通わせられてうれしい。子どもも喜んでいる」と胸をなで下ろす保護者の声も聞かれた一方、県教委と学校は、新たな看護師の確保とともに、教員や保護者、看護師を含めた連携の在り方の見直しに迫られる。

「問題はチームワークで防ぐ研修が十分でなかった。学校看護師が安心して働け、意見できる体制をつくりたい。保護者の要望が学校看護師へ直接いかないうち受け付ける窓口を設ける。学校看護師や外部職者の意見を聞く場を持つなど、具体的な体制を整える」

### 鳥取養護学校

この日は医療的ケアが必要な生徒・児童33人が登校。うち8人が看護師派遣による様子。「(同校で)看護師が付き添って登校を再開し、17日(12日)はさらに8人が、33人全員のケアが再開する予定だ。登校を再開した経緯が初めて喜びたい」と、神妙な表情で話した。県立中央病院、県看護協会、県立白兔養護学校(同市伏野)から日3人体制で対応。33人が勤務し1人が休む体制で、点滴や経管栄養、たんの吸引など医療的ケアを行っていた。県教委によると、子どもへの対応などを協議する校内の個別ケース会議は、看護師が退勤した放課後に教職員のみで実施しており、看護師は決まったことを養護教諭などを通して伝えられるだけだった。県教委の聴き取りには「孤立感、疎外感があつた」と話し、医

## 看護師の増員急務 連携の在り方見直しへ



鳥取県立鳥取養護学校内のケアルーム。医療的ケアが必要な児童・生徒はこの部屋でケアを受ける。11日、鳥取市江津